

高円宮殿下日本 カナダ記念基金



ニューズレター

第4号

2011年12月

<http://www.ptjc.ualberta.ca/en/PTJCMF.aspx>

ON THE COVER

I. 高円宮日本教育・研究センターからのご挨拶

II. 第2回日本カナダ学術コンソーシアム学生フォーラム

INSIDE THIS ISSUE

第2回JACACフォーラム報告(続)

III. 会計報告

IV. PTJCMF学生モビリティプログラム受賞者

V. 高円宮日本教育研究センター主催のその他のイベント

VI. 日加学術コンソーシアムの近況:最近の加盟校について

VII. 今後のPTJCMFイベント

VIII. カナダ日本研究ネットワーク(CANJAS)報告

高円宮殿下日本カナダ記念基金(PTJCMF)は、長年アルバータ大学及びカナダの大学教育に多大な貢献をされた故高円宮殿下を記念して設立されました。カナダのクイーンズ大学での3年間のご留学後、国際交流基金にご勤務され、世界各国での日本語及び日本文化の振興にご寄与されました。この記念基金は学生のモビリティ(移動・往来)を奨励・支援し、日本分野の新しい教育方法、研究や文化交流プログラムを助長することにより、日加関係を強化することを目標としております。

I. 高円宮日本教育・研究センターからのご挨拶

過去の経験や環境に倣い、日本は他国に比べ、より地震や津波に備えて来ました。しかしながら、2011年3月に起こった東日本大震災は、日本が経験した中でも未曾有の被害をもたらしました。震災復興に向けての支援や慈善活動は、日本国内そして日本と海外諸国との強い繋がりを再認識させてくれるものであり、これは高円宮殿下日本カナダ記念基金設立の基盤となった、地域・社会との結びつきという理念にも通じるものがあります。高円宮殿下記念基金がこれからも国際教育や地域開発などを通じて国際親交のさらなる発展に貢献し、親交に根付いた国際社会の模範として活動しつづけるよう尽力をしていきたいと思っております。

所長 下野 香織

II. 第2回日本カナダ学術コンソーシアム学生フォーラム (2011年2月21 - 27日)

第二回日本カナダ学術コンソーシアム・学生フォーラムは、カナダアルバータ州アルバータ大学高円宮日本教育・研究センターの主催で開催されました。2011年2月21日から27日の7日間のフォーラムには、カナダの六大学から8人の学生が、そして日本の大学から18人が参加しました。

今年度のフォーラムは貿易・環境保全をテーマとし、サブテーマとして地球温暖化問題、動植物の多様化、食料問題について議論を交わしました。参加した学生は、各分野の専門家による講義を受けたり、グループ内での意見交換、そして大学院生を交えての討論などを行いました。講義と午後のグループセッションはアルバータ大学で開催されました。フォーラムの最後の3日間は、カルガリー市に赴き、バンフ国立公園を観光し、カナダのロッキー山脈を体験しました。フォーラムの最終日はアルバータ大学カルガリーセンターにおいてグループプレゼンテーションと閉会式が開かれました。JACOSよりグループ敢闘賞、そして参加学生の投票によるリーダー賞が授与されました。



フォーラム参加学生は、バンフ国立公園でのガイド付きツアーを楽しみました

フォーラムでの学生交流を通じ、参加者たちは自分たちが大学で学び、研究している内容について他国あるいは他大学からの学生達と議論を深めると共に、多文化的見解からいろいろな物事を見るという、非常に有意義な経験をしたと思っております。フォーラムプログラム外のいろいろな行事もまた文化交流にもつながったようです。

次のページに続く。

前のページから続く。
第2回JACACフォーラム報告



日本・カナダの参加学生 午前の講義にて

参加学生からのコメント:

今回のフォーラムでの経験を通じて、自分の進路について再考し、今は何か国際的な仕事を考えています。JACACのおかげで、日本の文化や経済に対して、より一層理解が出来たし、今後日本での仕事も考えたいと思うようになりました。

-ロビー・サーダー (プリンス・エドワード・アイランド大学)

全体的に見て素晴らしいフォーラムでした。トピックは大変興味深いものでした。アルバータ大学で受けた講義では、講師の先生方の講義がとてもしっかりやすく、かつとても勉強になる内容でした。アルバータでの経験はとても楽しかったです。将来またこのような機会があったら是非参加したいですし、他の人にも推薦したいです。

-滝川 博之(城西国際大学)

以下が参加学生のリストです。

日本

榎本 志帆(津田塾大学)
藤崎 考(立命館大学)
舟橋 豊子(明治大学)
萩野 麻美(立命館大学)
早川 理紗(法政大学)
加納 頌子(名古屋大学)
北川 萌(上智大学)
小松 千容(明治大学)
前新 将(名古屋大学)
宮尾真梨子(大阪大学)
村瀬 加那子(関西学院大学)
永井 彩華(上智大学)
重松 平八郎(北海道大学)
滝川 博之(城西国際大学)
山田 順子(津田塾大学)
山下 真理子(法政大学)
山内 真(北海道大学)
米谷 寛紀(関西学院大学)

カナダ

メリーアム・アージュ (ヨーク大学)
ジャン・フランソワ・ケイティ (モントリオール大学)
クリスタ・リー・クリスチャンセン (プリンス・エドワード・アイランド大学)
アニータ・ファング (アルバータ大学)
ルーカス・ヘネシー (プリンス・エドワード・アイランド大学)
ロビー・サーダー (プリンス・エドワード・アイランド大学)
ノア・セイバー フリードマン (コンコルディア大学)
エリック・サリバン (モントリオール大学)



今フォーラム参加者カナダの大学生8人と日本の大学生18人の集合写真。ウェイン・カオ氏、勝悦子教授、クリスティーナ・ナカムラ氏と共に。

新ウェブサイトの開設

2011年度にPTJCMFは新しく2つのサイトを開設しました。皆様のアクセスをお待ちしております。

1. 日本カナダ学術コンソーシアム (CANJAS) WEBサイト<www.jacac.com>このサイトでは、CANJAS関連のイベント情報を日本とカナダの学生に提供します。ソーシャル・メディアとの連携も可能です。
2. カナダ日本語教育振興会(CAJLE)WEBサイト<www.cajle.info>現在構築中のこのサイトでは、全カナダ日本語弁論大会や各州の地区弁論大会の情報や学生や教師に有益な最新情報を載せていきます

III. 会計報告

2011年3月31日時点で、帳簿残高は1,515,034.5ドルです。2011年3月時点での運営予算は80,268.12ドルで、これより58,500ドルが2011-2012予算に充てられています。3月以降これまでに13,000ドルの寄付金が追加されています。

IV. PTJCMF学生モビリティプログラム受賞者

(2010年10月～2011年9月)

第3回高円宮妃殿下英語小論文コンテスト

2010年度高円宮妃殿下英語小論文コンテストでは、グローバル経済において日本とカナダがさらに成長を続けるにはどのような協力をすべきか、二国間貿易に限らず、資源開発や資源共有、あるいは政策といったいろいろな立場から論じることが課題として出されました。両国の経済にとって有益になる協力体制とはなにか、ということ論点とした小論文の応募が期待されました。残念なことに、審査の結果、今回は大賞に該当する応募論文は無し、という結論になりました。2011年度コンテストへの応募に期待しています。

第22回全カナダ日本語弁論大会

2011年3月31日

於:アルバータ州カルガリー

2011年全カナダ日本語弁論大会は高円宮日本センターとカルガリー大学の共催で行われました。大賞は、「看護師の仕事」という題で弁論をしたカルガリー大学のシェリー・ツァンさんに授与されました。

夏期日本語研修への旅費助成

PTJCMFは、京都、立命館大学が主催する夏期日本語研修に参加するカナダ人大学生に対し、旅費助成を行っており、今年、以下の3名の学生が授与されました。

ウェイ・リー (アルバータ大学) ミンウェイ・ゴ (アルバータ大学) ツァン・ゾー (アルバータ大学)

JACOS-JAPEX工学技術奨学金

2011年9月

2008年6月にアルバータ大学生に対するJACOS-JAPEX工学技術奨学金プログラムが正式に認可されて以来、毎年鉱山工学、石油工学、化学工学、マテリアル工学、地質工学、環境工学を勉学中の2、3、4年生の中から最も優秀な成績を収めた学生4名に授与されます。2012-13年度より、カルガリー大学の学生にも同奨学金が授与されます。

2011年JACOS-JAPEX工学技術奨学金受賞者は次の7名です。

- ・ ビン・チン・クオ (アルバータ大学)
- ・ ダスティン・バクス (アルバータ大学)
- ・ ジェレミー・ファイブ (アルバータ大学)
- ・ ジェレミー・ジョゼフ・マグパリ (アルバータ大学)
- ・ トラビス・フランプション (キアノ・カレッジ)
- ・ ジェイ・コー (キアノ・カレッジ)
- ・ ジーン・ゾウザ (キアノ・カレッジ)

V. 高円宮日本教育研究センター主催のその他のイベント

アルバータ大学日本人大学院生会(JAGSA) 東日本震災募金・支援活動

アルバータ大学の学生や、教職員、地域の方々の協力を得、JAGSAメンバーである日本人大学院生たちとエンドモントンの学生ボランティアグループが一団となり、一ヶ月に渡り震災後の日本を支援する運動を行いました。2011年4月に行われたJAGSA主催の震災支援イベントでは、17,500ドル余りの募金を集めました。「日本を想うタベ:3月11日以後の現状と将来について学ぶ」と題したこのイベントでは、募金を呼びかけたり、震災に対する認識や復興への士気を高めることが出来ました。JAGSAそして地域の皆様の篤いご支援に感謝を申し上げます。



2011年全カナダ日本語弁論大会の入賞者を含む全参加者の集合写真

第二回日加学術コンソーシアム

(JACAC)学生フォーラム

2011年2月21～27日

PTJCMFは、アルバータ州エドモントンで開催された学生フォーラムへの参加者の旅費助成を行いました。第二回JACACフォーラムについての詳細は上記セクションをご覧ください。



太鼓のパフォーマンスを楽しむ、東日本大震災救援募金活動に集まったエドモントン市民。

VI. 日加学術コンソーシアムの近況:最近の加盟校について

今年度新たに、ウォータルー大学／レニソン・カレッジ大学がカナダ側コンソーシアムに加盟しました。これでカナダ側10大学と日本側11大学となり、今後さらに両国間での協力と連携のもと、更なる飛躍を目指します。現在の加盟校リストは次の通りです。

- ・ 明治大学 (東京)
- ・ 城西国際大学 (千葉)
- ・ 上智大学 (東京)
- ・ 桜美林大学 (東京)
- ・ 津田塾大学 (東京)
- ・ 関西学院大学 (兵庫)
- ・ 法政大学 (東京)
- ・ 立命館大学 (京都)
- ・ 北海道大学 (北海道)
- ・ 京都教育大学 (京都)
- ・ 名古屋大学 (愛知)
- ・ アルバータ大学 (アルバータ)
- ・ ブリティッシュコロンビア大学 (ブリティッシュ・コロンビア)
- ・ マニトバ大学 (マニトバ)
- ・ ヨーク大学 (オンタリオ)
- ・ キーンズ大学 (オンタリオ)
- ・ モントリオール大学 (ケベック)
- ・ コンコルディア大学 (ケベック)
- ・ ラバル大学 (ケベック)
- ・ プリンス・エドワードアイランド大学 (プリンス・エドワードアイランド)
- ・ ウォータルー大学／レニソン・カレッジ大学 (オンタリオ)

VII. 今後のPTJCMFイベント

第3回日本カナダ学術コンソーシアム・学生フォーラム 2012年2月19-26日

例年通り、三、四回生の学部生がそれぞれのJACAC加盟大学を代表して参加し、日本・カナダ双方の学生に有益な意見交換を行います。2012年のフォーラムは京都の立命館大学の主催で開かれ、「震災後の日本・カナダ間の協力と相互理解」をテーマに、学生たちは、日加関係をはじめとする多様な国際交流のグローバル社会における意味について議論します。今回は特に2011年3月11日に起こった東日本大震災がもたらした影響に焦点をあて、「カナダ、日本と国際社会の観光産業」や「異文化理解と国際的企業の成功」などについて討論を行う予定です。フォーラムは、日本とカナダの学生間の相互理解を促進することを目的としています。

第23回全カナダ日本語弁論大会 2012年3月31日

2012年全カナダ日本語弁論大会はバンクーバー市ブリティッシュコロンビア州、ブリティッシュコロンビア大学で開催されます。日本語学習を立派に修め地区大会で優勝した学生たちが全国大会に地区代表として参加権を与えられます。カナダ中からの参加者から大賞に輝いた受賞者一名にはPTJCMFより3000カナダドルの旅行補助金が授与されます。

第3回高田宮妃殿下英語小論文コンテスト

今年度の英語小論文コンテストは現在応募論文募集中です。英語圏での就学経験の少ない日本の大学生を対象にしており、大賞としてアルバータ大学英語プログラムでの学費、3000カナダドルの奨学金が授与されます。今年度の小論文のトピックは、「日本での英語教育の重要性」です。応募締め切りは、2011年12月30日です。受賞結果は2012年1月中旬にPTJCMFウェブサイト上にて発表されます。

VIII. カナダ日本研究ネットワーク(CANJAS)報告

CANJASは、アルバータ大学とカナダ国内の他の6大学(ブリティッシュコロンビア大学、ビクトリア大学、トロント大学、カルガリー大学、セント・メアリー大学、コンコルディア大学)を結んでいます。以下、二回の講義がビデオオンライン形式で配信されました。

2010年10月1日

ケラー・キンブロー博士(コロラド大学):「素晴らしくも残酷なフィクション:仏法・物語と17世紀日本の戯曲の奇跡」

2011年2月3日

アン・アリソン教授(デューク大学):「魂のストライキ:情勢不安、社会保障、そして21世紀日本社会の再建」